

高齢者の不便学生が解決

あきた 経済 インタビュー

介護保険ではカバーできない高齢者の困りごとを地元の高齢者が解決するサービス「アシスタ」を運営する秋田市の株式会社「リバティーゲート」。全国展開を目指しているという菅原魁人社長に事業の概要と今後の展望を聞いた。(聞き手 中村桐佳)

——アシスタのサービス内容は。
買い物やゴミ捨て、通院の付き添いなどを通して、高齢者が抱えている様々な日常の悩みを学生が解決するサービ

リバティーゲート社長 菅原 魁人 さん 23



アシスタ

スを提供している。登録する学生約200人のうち半数が医療福祉系の仕事を志している。高齢者とのコミュニケーションを学ぶために登録している。不足している介護人材の新たな担い手確保につなげたい。

——事業の手応えは。
雪がきの依頼が多い冬季は月1000件、それ以外の時期も月500件の依頼がある。コロナ禍で高齢者の自宅を訪れるのがはばかれる時期もあったが、「生活に欠かせないから来てほしい」と多くの依頼が舞い込んだ。利用者も学生とコミュニケーションをとる機会を楽しくしてくれていて、リピーター率は97%に上る。高齢者だけでなく、町内会や企業などからの依頼もあり、人手が足りないときのお手伝い要員として需要があると感じている。

——他の事業所などとの連携は。
利用者のケアマネジャーと密に連携を取っている。窓ふき掃除など介護保険外のサービスが必要になったときに、利用者の了解を取った上でケアマネから依頼の連絡が入ることもある。高齢者の自宅に立ち入る機会が多いので、家の中に転倒するリスクを招くものがないか確認するなど見守りも意識している。利用者の生活を支えるハブ(軸)になりたい。

——今後の展望は。
目指しているのは「高齢者になることが待ち遠しい会社」。人生100年時代の今、高齢者として過ごす期間は長い。高齢者の不便が多ければ、その不便に耐える期間が長くなる。不便を解決する方法があることを知ってもらい、年齢を重ねることへの不安を取り除いていきたい。そのためにも、アシスタのサービスを全国展開したい。秋田市内でサービスを展開するリバティーゲートを本部に、フランチャイズ加盟店を増やしていく。今年から、仙北市、青森県弘前市、三重県四日市市の3店舗でアシスタのサービスを新たに始めた。2024年までに加盟店を150店舗に増やす目標を掲げている。

すがわら・かいと 秋田市出身。秋田大1年だった2018年、高齢者対象のサービスで起業したいと考え、同市内の高齢者約100人に聞き取り調査を実施。「話し相手ができない」「話したい」といった悩みは学生でも対応できる。19年12月にアシスタのサービスを始めた。20年7月には運営会社「リバティーゲート」を設立した。